

理解からはじめよう

中 三

本来大人が担うと想定されている、家事や家族の世話などを日常的に行っている子供のことを「ヤングケアラー」という。最近よく聞く言葉だが、この問題はずっと昔から消えることなく存在する。

家事や家族の世話と言ってもお手伝い程度であるということではない。例えばシングルマザー、シングルファザーの家では女手一つ、男手一つで子供を育てるために必死に働かなくてはならない。そして、他の家庭と同じように子育てもする。そんな家庭に、もし歳の離れた兄弟がいたらどうなるだろうか。少しは上の子に頼り、まだ小さい弟、妹の面倒を見てもらったりお手伝いをしてもらったりすると思う。ただ、親が仕事に行っている間、まだ幼い弟、妹の世話や家事のほとんどを子供に任せてしまっている家庭があるらしい。私はそのことを最近インターネットの記事で知った。そこで取材されていた子は、中学校にも通わず、

自分の時間を犠牲にして家族のために尽くしていた。このように、家族の障害や病気の介護を担っている特別な場合だけでなく、家族のことを優先して誰かの面倒を見ることで自分の生活に支障をきたしてしまっている子供全てを「ヤングケアラー」というのだ。この記事を読んだとき、自分と近い歳にそんな子供がいることに驚くと同時に、悲しさを感じた。なぜなら、そんな家庭状況において、誰が悪いというわけではないからだ。ヤングケアラーと聞くと子供だけが大変そうに聞こえるが、負担があるのは親も同じだ。その親の大変さを知っているからこそ、彼らは誰かを責めることもできずに辛く苦しいことを自分の中に溜め込んで我慢しているのだ。学校に通えずについた分の差は、埋めることは難しい。そうになると、大人になっても大変な思いが続いてしまう。そんな悲しい連鎖から目を背けてはいけないのだ。

ヤングケアラーのことを知って、「親ガチャ」という言葉を思い出した。「親ガチャ」とは、親を自分自身で選べずに納得のいかない家庭環境で人生を左右されることをスマホゲームの「ガチャ」のように運任せであると例えている言葉で

ある。この言葉は、努力をしない子供の言い訳や、親に対して不謹慎だという意見の人もいる。しかし、生まれ育った環境は一生残るものであり、子供の努力だけでは乗り越えられない問題でもあると思う。それはヤングケアラも同じだ。自分の目標に向かって努力することもできない。そんな状況の中にいる子供たちが少なくないことに心を痛めた。

私は小学校の頃に目標に向かって努力することの大切さと、それを成し遂げたときの達成感を味わうことができた。小さな頃からずっと頑張ってきた空手のことだ。大会が近づく、夜遅くまでの自主練習や遠い場所への出稽古、連日空手漬けになるそんな生活をいつもそばで支えてくれたのは母だった。一年に一度行われる大会で私は優勝することができた。優勝が決まった瞬間、母と抱き合った瞬間、あの日の出来事は思い出さずだけで心が奮い立ってくる。今思えば、あの日得たものは、努力の大切さの実感と成し遂げたことによる達成感だけではなかった。もっと大切なものもたくさん学んだ気がした。いつも悔し涙ばかりを流していた私だが、その大会は笑顔で終わること

ができた。それは私にとって、母と共に獲った最高の金メダルになった。私が経験を通して感じたような充実感やそばで支えてくれる家族の愛情を、一人でも多くの子供たちに感じてもらいたい。それが、今の私の願いである。

私を取り上げた、子供の努力ではどうにもならないこの問題は、世の中にあふれかえっている問題のごく一部にすぎないが、多くの子供が苦しみ、涙を流していることは確かだ。ずっと昔から続く問題なのに、最近よく聞くようになったということとは、このことをまだ知らない人がいる可能性がある。ならば、この問題にまっすぐに向き合い、もっと大きく取り上げて、大勢の人に知ってもらい必要がある。みんなの理解がないと解決しない大きな問題だということも伝えなくてはならない。私には大きなことを変えられる影響力も行動力もないが、一人の人間として理解することはできる。辛い人の気持ちを理解したら、手を差しのべることもできる。それは、みんなでこの問題を解決する上での第一歩だと思う。もし一人の理解で誰かの涙を笑顔に変えることができるのなら、この小さな一歩が大きな進歩になる。そして、今がその

第一歩をみんなで踏み出すときだと思う。私たちが創り上げていく先の未来を、同じ想いをもったみんなで行んでいくべきだ。